



練習風景

風間 源一郎

中学生の吹奏楽練習風景に桜のバックを入れて春の情景を表現しました。

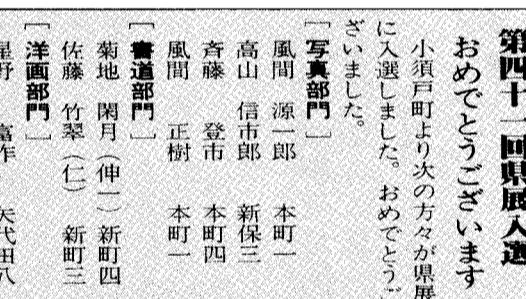


風間 源一郎

県展入選作品 写真部門 ①



齊藤 登市



齊藤 登市

本來バック風景を入れて撮影するところ、あえて風景をぼかしアップで撮りました。

生涯学習の中の

視聴覚教育

— 視聴覚機器を利用した個人学習から…… —

従来、公民館で行われてきました住民への学習機会の提供は、集団学習が主流と考えられていました。しかし、今日その内容の専門化、高度化が見られるようになり、更に生活条件の多様化も加わり、時間や場所に制約された集団学習に対応しきれない部分が生じてまいりました。

現代社会においては、ラジオ、テレビ、新聞等で生活に即した情報が流れこみそれを利用することによって、自分たちの生活の中に学習の機会をもつことができるようになりました。その学習が毎日のさまざまな活動と肩を並べるようになり、生活のリズムの一コマとなつて、教養及び趣味の向上に役立つようになりました。しかし、これは利用する側の

(四二)が「乳ガン」と診断され、十年間のガンとの闘いに終止符を打ち昇天されるまでのドキュメントが放映されました。この番組は、夜中の十一時五十五分

は、戦後一期期映画やスライドが盛んに導入され、全国各地でもてはやされ娛樂に教養に、大きな役割を果した時期がありました。現在も優れた教材が作られ学習に利用されています。

一方、新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどのマスコミの発達とともに情報化社会と称される現象

が生じ、情報の洪水、流行の支配に圧倒され個人の個性や自己を喪失する傾向が見られるようになってまいりました。

内山さんにとっての俳句には、我を捨てるものだと思ひます」と

話していただき、また「俳句はちょうど焼物のように作って捨てるものです」と

和やかに話してくださいました。

そこで一度立ち止まってその情報を客観的につかまえ自分のものにしていかなければなりません。

以上述べてきた個人学習の傾向に対し、公民館ではテレビ、ラジオ等の活用による学習を積極的に取り上げていかなければなりません。

更に、図書室の充実により多くの情報を収集すると共に、住民の皆様へ提供するよう努力しなければなりません。

第四十一回県展入選

おめでとうございます

小須戸町より次の方々が県展に入選しました。おめでとうございました。

【写真部門】

風間 源一郎

高山 信市郎

齊藤 登市

風間 正樹

本町一

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

洋画部門

星野 富作

渡辺 チイ

藏町一

日本画部門

矢代田八

渡辺 星野

菊地 開月

佐藤 竹翠(仁)

新町三

</div

今年で二年目 田植えの体験学習

五月十日（土）、五月晴れのこの日小須戸小学校の五年生が横川浜地内の田んぼにおいて、昔ながらの手植えの田植えを体験学習として行いました。横川浜の池田忠夫さんのご厚意により田んぼと苗の提供から一切のご援助で、今年で二年目の田植となりました。

田植えの体験学習について

横川浜 池田忠夫



一株一株ていねいに植えていく子供達

昨年、小学校五年生の授業の中で稻の発芽の勉強があると聞

きました。実際に手で植える作

業

田の草取り、稻かけ、脱こ

くまで行い収穫を終えた時点で

五年生全員と父母とで「もつ

き」大会を行いました。

今年も五年生学年主任吉田先

生の指導の下、百二名の子供達

がこがねもちの苗を昔ながらの

手植えで植えていきました。

数日後、道路上で五年生の生

徒に会った時「稻は順調に育

てますか」と尋ねられました。

ふだん何んの気なしに食べてい

る米が、どういう工程で作られ

るのかを知ることにより、物を

育てる大切さ、美しさを知つて

もらいたいと思います。

最後に今年も先生方、町役場

農業協同組合、農業委員会のご

協力をいただきありがとうございました。今後父母とともに子供

達に暖かい応援をよろしくお願

いします。

親子そろって、テレビと一味

違つたアニメ映画を見に来てみ

ませんか。

農業協同組合、農業委員会のご

協力をいただきありがとうございました。今後父母とともに子供

達に暖かい応援をよろしくお願

いします。

ヤング講座

申込書

会場

会費

期日

午後七時三十分より

午後七時三